



PR動画を発表する児童ら

大津一小ふるさとPR大作戦

ICT 駆使 地元PR動画

大津ヶ丘第一小 schools は先月30日、沼南近隣センターで開催された「ひまわりプラザまつり」で「ふるさとPR大作戦」と銘

打った大津ヶ丘地域のPR動画を発表した。同校で推進する情報化教育で培った知見を活かし、地域課題の掘り起こしから現地調査、動画作成まで、児童が一貫して制作。今後もインターネットを通じて動画を拡散し、その魅力を広める考えで、児童代表の石井花歩さん(6年)は、「地域の魅力をたくさんの人に伝えられたし、これからも伝えていくために、みんな考えていく」と話した。

PR大作戦は、6月からおよそ半年をかけて動画に仕上げた。地域の関係者30人を学校に招いた世代間交流からはじまり、地域課題を抽出。大津ヶ丘の野鳥や人気店の洋食屋やカフェ、地元農産物(地産地消)など、8グループを編成してそれぞれ取材した。

石井さんによると取り組みは、児童らの「地域に恩返しを」という気持ち

ちの発露。ただ、PR大作戦の一環で企画したイベントの参加募集が思うようにいかず、「やりたいことを伝える難しさを感じた」と石井さん。授業参観にチラシを配るなど工夫を凝らし、当日は多くの地域住民や保護者が企画を楽しんだ模様で「私たちの取り組んだこ

とが認められ、自分たちのやることに自信が持てるようになった」と石井さんは喜んだ。6年生らは現在も動画を配信するデジタルサイネージなど、発信場所を探している。「発信方法を広げて、地域にいい影響が出れば」と石井さんは話した。